NEW CROWN　授業実践事例

BOOK 1　LESSON 2　授業例①

N.M. 先生

指導計画表
（全 4 時間）

時間	学習内容・主な活動
1	■GET Part 1 の導入・理解
2	■GET Part 1 の復習 Part 2 の導入・理解
3	■GET Part 2 の復習 Part 3 の導入・理解
4	■GET Part 3 の復習 まとめ

実践例

1.　はじめに

LESSON 2 でねらいとする文構造は，どれも小学校の外国語活動の授業の中で触れられていることが多い。生徒は，これらの表現を聞いて，およその意味は理解できるものと考えられる。そこで，小学校外国語活動との接続を意識し，小学校で行われた活動を思い出させながら，音声として聞いたことがある表現を文字とともに正確な表現へとつなげていくことが大切である。そのためにも，まずはあれこれと説明をせずに，その表現が使われる意味がある場面で多くの英文を聞かせ，やりとりを楽しんだ後に，文構造について確認するという流れで進めていく。言葉は，ただ表現を覚えて言うものではなく，意味を伝え合うために使うのだということを感じ取れるように，言葉を使う意味がある場面を大切にして，意味（情報）のやりとり，気持ちを分かち合うことができる活動を設定していきたい。また，コミュニケーションの達人になるために大切なこととして，まずは人やものに対して興味をもつこと，そして質問する，感想を加える，相手の言葉を繰り返す，新情報を加えるなど，会話を継続させるために大切なことを，1 年間をとおして指導していきたい。

2.　指導の流れ

◆GET Part 1（第 1 時）

〇聞いてみよう

ここでは，会話を聞かなくても，写真と関係のある場所を考えることができる生徒も多くいると思われるので，まず，会話を聞く前に各自で予想して線を結ばせ，その後，自分の予想があっているかどうかを確認するために会話を聞かせ，会話を聞こうとする動機を高める。答えがわかった後で，さらにもう一度聞いて，ブラウン先生が，それぞれの写真について，どのような感想を言っているか確認する。

〇本文

教科書のフクロウとキツネの写真を拡大したものを用意し，理科室での健とブラウン先生の会話を聞いて，2 枚の写真が飾られている場所，2 人が立っている位置について，教室を理科室に見立てて再現させ，this と that が使われている場面，意味を確認する。

ここまでの「聞いてみよう」と本文の内容理解を通じて，新出語句の導入はある程度できているが，改めて，フラッシュカードを使って，各語句の発音，意味を確認し，発音練習を行う。

本文の音読をいろいろな方法で何度も行う。

〇話してみよう

＜コミュニケーションの達人になろう！①＞

本文の健の答えに注目させ，相手からの質問に対して，Yes, it is. / No, it isn't.だけでなく，もう 1 文を付け加えて答えていることに気付かせる。

さらに，既習の LESSON 1 の本文から，同じように質問に対して答えているところを見つけさせる。

動物のシルエットを例として示し，どのように 1 文を付け加えたらよいか，全体で確認する。

例）Is this a bear? → No, it isn't. It is a panda.
Is this a kangaroo? → Yes, it is. It is from Australia.

白い紙を配り，1 匹の動物の絵を描かせ，ペアでお互いの絵について，何の動物かたずね合う活動を行う。絵は上手すぎない方が，すぐに当たらなくて楽しいので，1 分以内でさっと描くように伝え，描き終わらないようであれば，さらに 30 秒追加する。隣同士のペアで，相手の描いた絵を見て，Is this a ～?とたずね，答える方は必ず Yes, it is. / No, it isn't.の後に前述の例のような 1 文を加えることとする。その際，No.の場合でも，正しい情報（It is a panda.）に加えて，もう 1 文（It is from China.）を付け加えることもできること，また，Yes.の場合に新しい情報を思いつくことができなくても，Yes, it is.だけで終わらせずに，同じことの繰り返し（It is a kangaroo.）でもかまわないことを伝える。

＜コミュニケーションの達人になろう！②＞

「聞いてみよう」の会話をもう一度聞き，健が答えた後に，ブラウン先生が一言，感想を言っていたことを思い出させる。本文中の感想（It is beautiful.）についても確認する。

先ほどの絵を使って，今度は座席の前後のペアで，同様に何の動物かたずね合う活動を行い，答えを聞いた後に，その絵に対して感想（ほめ言葉）を言うようにする。

うまくほめ言葉が使えていたペアに，全体の前で発表させ，最後にもう一度，座席の斜めのペアで，同じ活動を行う。

各自が描いた絵は，裏に自分の名前と何の動物かを書かせ，回収する。

次時に，自分のペットの写真や宝物等，紹介したい物があれば持ってくるように指示する。

◆GET Part 1（第 2 時）

〇本文（復習）

教科書のフクロウとキツネの写真を見ながら，本文の音読をする。

教科書とは別の写真（絵）を用意して，本文中の hawk，owl，beautiful，fox，Hokkaido をその絵に合う語に言い換えて練習する。

それらの写真（絵）だけを見て，会話が再現できるように練習する。

プリントに本文を書き写す。

〇書いてみよう

教師のペットの写真を見せ，This is my cat.に対して感想（ほめ言葉）を言わせる。It is a nice cat. / It is nice.の 2 通りの表現について確認する。

前時に持ってくるように指示した紹介したい物について，This is my ～.と言ってペアで見せ合い，感想を言う活動を行う。紹介する物は特別な物でなくても，普段使っている鉛筆や消しゴム等でもよいこととする。隣，前後，斜めの 3 つのペアで行った後，全体の前で何人かに発表させる。1 つの物に対して，何人かに感想を言わせる。（同じ感想を言ってもかまわない。）

前述の 2 通りの表現を使って，自分や友だちが言った感想の表現をノートに書く。

◆GET Part 2

〇これは何かな？―①

干支を表すトンパ文字のカードを 12 枚用意して，干支であることを言わずに，順不同で What is this? と聞いていく。すぐには当たらないと思われるので，「何だろう？」という気持ちを込めながら，何度も聞き，正解を確認したら，黒板に干支の順になるように貼っていく。繰り返しやっていくうちに，途中で，干支だと気付く生徒が出てくる。時間があれば，干支の漢字についても同様に行う。

〇聞いてみよう

会話を聞いて，どのイラストについては話されているのか確認する。もう一度聞いて，内容をさらに確認する。

〇本文

「聞いてみよう」により，本文の内容理解はほぼできているので，確認として新出語句について，フラッシュカードを使って，各語句の発音，意味を確認し，発音練習を行う。

本文の音読をいろいろな方法で何度も行う。それぞれの文をどのような気持ちを込めて読んだらよいか考えながら音読させる。

〇これは何かな？―②

前時に描いて回収した絵を使って，しっぽや脚だけなど，絵の一部を見せて，What is this?と聞き，描いた本人以外が，何の動物か当てる。（描いた本人も自分の絵だと気付かないことも多い。）答えが出てきたら，Is this a ～?と描いた本人に確認する。

〇当てたらダメよゲーム

「これは何かな？②」でまだ提示していない絵を使って，同様に What is this?と聞き，今度はわざと答えが当たらないように，It isn't a ～.と答えさせる。絵の一部だけでは，何の動物かよくわからず，逆に思いがけず当たってしまうこともある。座席の 1 列全員がうまく答えられれば成功などとしながら，What is this?と It isn't ～.の表現を繰り返し使って

いく。最後に，描いた本人に What is this?と聞き，正解を答えさせる。

〇書いてみよう
　自分が描いた絵について，会話が成り立つように，What is this? It's a ～.と書かせる。

〇文構造のまとめ
　GET Part 1 と 2 に出てきたポイントとなる文構造について，板書しながら説明をして，ノートにまとめさせる。

◆GET Part 2（第 3 時）
〇本文（復習）
　教科書のイラストを見ながら，本文の音読をする。
　教科書とは別の「英漢字」をホームページから印刷して，本文中の語を言い換えて練習する。
　それらの「英漢字」だけを見ながら，会話が再現できるように練習する。
　プリントに本文を書き写す。

◆GET Part 3
〇聞いてみよう
　ここでは，Part 1 と同様に，会話を聞く前に，その人物と関係のあるスポーツを予想させ，その後，自分の予想が合っているかどうかを確認するために会話を聞かせる。答えと会話の内容を確認したら，もう一度会話を聞き，he と she の違いに意識させる。再度，会話を聞きながら，シャドウイングをさせる。

〇本文
　ポールとブラウン先生の本文の会話を聞いて，「聞いてみよう」には出てこなかった人物（コーチ）について確認する。
　新出語句について，フラッシュカードを使って，各語句の発音，意味を確認し，発音練習を行う。
本文の音読をいろいろな方法で何度も行う。

＜コミュニケーションの達人になろう！＞
　ポールの答えの Yes, she is.の後に，もう 1 文を付け加えるとしたら，どのような文が考えられるか，ペアで考えさせ，いろいろなアイディアが出てきたら，それらを加えて，ポールの答えをふくらませていきながらさらに音読する。（例：She is my best friend. She is from China. She is cute. She is a good volleyball player too.）

〇コーチを紹介しよう
　本文中に出てくる男の人については，先生ではなく卓球のコーチであるということ以外は何の情報もない。そこで，自分たちでその人物像を想像して作り上げ，紹介する文を考えさせる。4 人組になって，各グループにコーチの顔のイラストを渡し，その名前，出身地，年齢，得意なスポーツ等について，紹介する文を考え，発表させる。

◆GET Part 3（第 4 時）
〇本文（復習）
　教科書のメイリンとコーチのイラストを拡大したものを黒板に貼り，そのどちらを見ながら話したらよいかを確認しながら，本文の音読をする。
　2 人組で，そのイラストの方を指しながら，どの人物の話をしているのかわかるように，ポールとブラウン先生の会話を再現させる。その際，人を指さす行為は失礼にあたるので，手のひら全体で，それぞれの人物を指すようにさせる。
　プリントに本文を書き写す。

〇登場人物を紹介しよう
　これまでに出てきた教科書の登場人物のイラストを用意し，それぞれの人物について，紹介する文を書く。（This is 〇〇. He / She is ～.）これまでに習った内容を振り返り，自分たちが知っていることに加えて，前回のコーチの紹介と同様に，知らないことでも，自分が作家になったつもりで，人物像を作り上げてもかまわないこととする。出身地，年齢，得意なスポーツ，感想（かっこいい，美しい，かわいい）等について，ノートに書き，発表する。
　ここでは，まだ各人物の情報や使える文構造が限られているが，今後，定期的にこの人物紹介については，内容をふくらませながら行っていく。
〇文構造のまとめ
　GET Part 3 に出てきたポイントとなる文構造について，板書しながら説明をして，ノートにまとめさせる。

3.　まとめ

　このレッスンで出てくる文構造は，この後，繰り返し使われる表現なので，あまり詳しく説明しすぎず，ここで完璧に定着させるということよりも，引き続き何度も使っていく中で，定着をめざすようにする。単なる表面的な文型練習に終わらせず，必ず言う意味のある状況で，その文を発するようにし，どのような場面で使われる表現なのかを感じ取らせ，何度も繰り返し使っていくうちに，聞いたことのある言葉から自分で使える言葉へと昇華させ，表現力を高めていきたい。